

八戸市・階上町域における円筒下層式土器以前の遺跡分布

中村 哲也¹⁾

Distribution of Archaeological Sites before Entoukasou Type in Hachinohe City and Hasikamicho Town

Tetsuya NAKAMURA¹⁾

Key words: 遺跡分布 円筒下層式土器以前 住居跡 落とし穴 居住活動

1 はじめに

本稿は、八戸地域における縄文時代草創期から前期前半の遺跡分布について検討することを目的とする。対象とした時期は縄文時代草創期から縄文時代前期前半、地域は八戸市（南郷区含む）と階上町とした。この地域を分析対象とした理由は発掘調査の密度が高く、遺跡の内容を把握しやすいからである⁽¹⁾。

その動機・目的は本誌第38号の「八戸地域における円筒式以前の縄文遺跡地名表」（中村 2014：以下「旧稿」）に示したが、あらためて提示しておくことにする。八戸市南部の遺跡分布は、縄文時代中期末葉に大きな転換点を迎える。その概略は以下のとおりである。

円筒土器文化期には松館川・新井田川の合流点付近を中心に規模の大きな集落が集中的に分布する。中期末葉に至って集落が見られなかった馬淵川東岸にも新たな遺跡が営まれるようになる一方、新井田川・松館川流域では規模の大きな遺跡は次第に分散傾向を示すようになり、後期初頭には集落はほぼ消滅する。後期前葉にかけて、規模の大きな集落は馬淵川東岸に営まれるようになる。

筆者は、円筒土器文化期の集落が中期末葉以降解体する理由を考える上で、円筒土器文化期の集落分布のあり方がどのような過程を経て成立したのか把握することは、直接の答えではないかもしれないが、縄文人の土地利用史や空間認識にかかわる事実を明らかにする上で、一定の意味があると考えている。そこで、円筒式以前の遺跡分布のあり方を検討することにしたものである。

2 分析

旧稿の集成に遺漏分を加え、さらに当該期の落とし穴で時期や用途が報告書で明示されなかったものも追加した⁽²⁾⁽³⁾。次に青森県遺跡台帳で対象時期に該当する遺跡を加えて遺跡分布図を作成した。その結果を基に遺跡の分布と地理的な区分から、A～Eの5地域を設定した。Aは八戸湾南岸から階上町の海岸線付近を含む地域である。Bは新井田川・松館川流域で、西は土橋川まで、Cは八戸湾北部沿岸、Dは土橋川以西の馬淵川・浅水川流域、Eは概ね国道45号線から西、階上町蒼前平、八戸市褰子、八戸市天狗沢、八戸市通清水を結ぶ線以南である。図中のドットは発掘調査報告書が刊行されており対象時期の遺構または遺物が検出されたもの、遺跡台帳に当該時期の記載があり発掘調査が行われたが対象時期の遺構・遺物が発掘調査報告書から確認できないもの、遺跡台帳に当該時期の記載があるものに分類して表示した（図1）。

住居跡数について、八戸地域全体で見ると、居住活動が始まるのは草創期後半であるが、その痕跡は少ない。居住活動が活発になるのは縄文時代早期中葉、白浜式の頃である。物見台式期には居住活動が低調となる。以後、土器編年の問題もあるので、見かけ上少ない時期もあるが、全体に多少変動しつつも継続した居住活動が認められる（図2）。

A～Eの地域毎に住居跡と落とし穴、及び発掘調査面積⁽⁴⁾について集計した結果を表1・2、図2・3に示す。住居跡はB地域が61棟と最も多く、以下C・E地域が39棟、A地域が30棟、D地域が15棟となっている⁽⁵⁾⁽⁶⁾。

A・C・Eの各地域では、住居跡棟数のピークが特定の時期に偏る傾向がある。それぞれのピークは他の地域と時間的な補完関係にあるようにも見えるが、時期ごとに区分した資料では絶対数が不足していると考えられ、性急な解釈は慎むべきである。B地域では早期中葉から後葉まで複数のピークが認められ、繰り返し利用された地域であることがわかる。

D地域では、当該期の遺跡は多数存在するものの、住居跡の検出数は少ない。そこで遺跡の内容に立ち入ってみると、土器だけが検出された場合、小堅穴遺構・土坑、落とし穴、集石遺構または礫群と称される遺構のみが検出された場合が多い。D地域の南東部では八戸ニュータウン建設に伴っておよそ330haにわたって開発が行われた。これに伴って発掘調査が実施されており、遺跡の内容や分布状況の信頼性は高いといえる。また、根城跡で白浜式～寺ノ沢式頃の住居跡が4棟検出されているが、その分布状況や周辺の発掘調査の状況からあまり大きな広がりを持つとは考えがたく、多くても一時期2～3棟程度の集落を想定するのが妥当であろう。他の時期の住居跡は検出されていない⁽⁷⁾。こうした

1) 青森県立郷土館主任学芸主査 青森市本町二丁目8-14

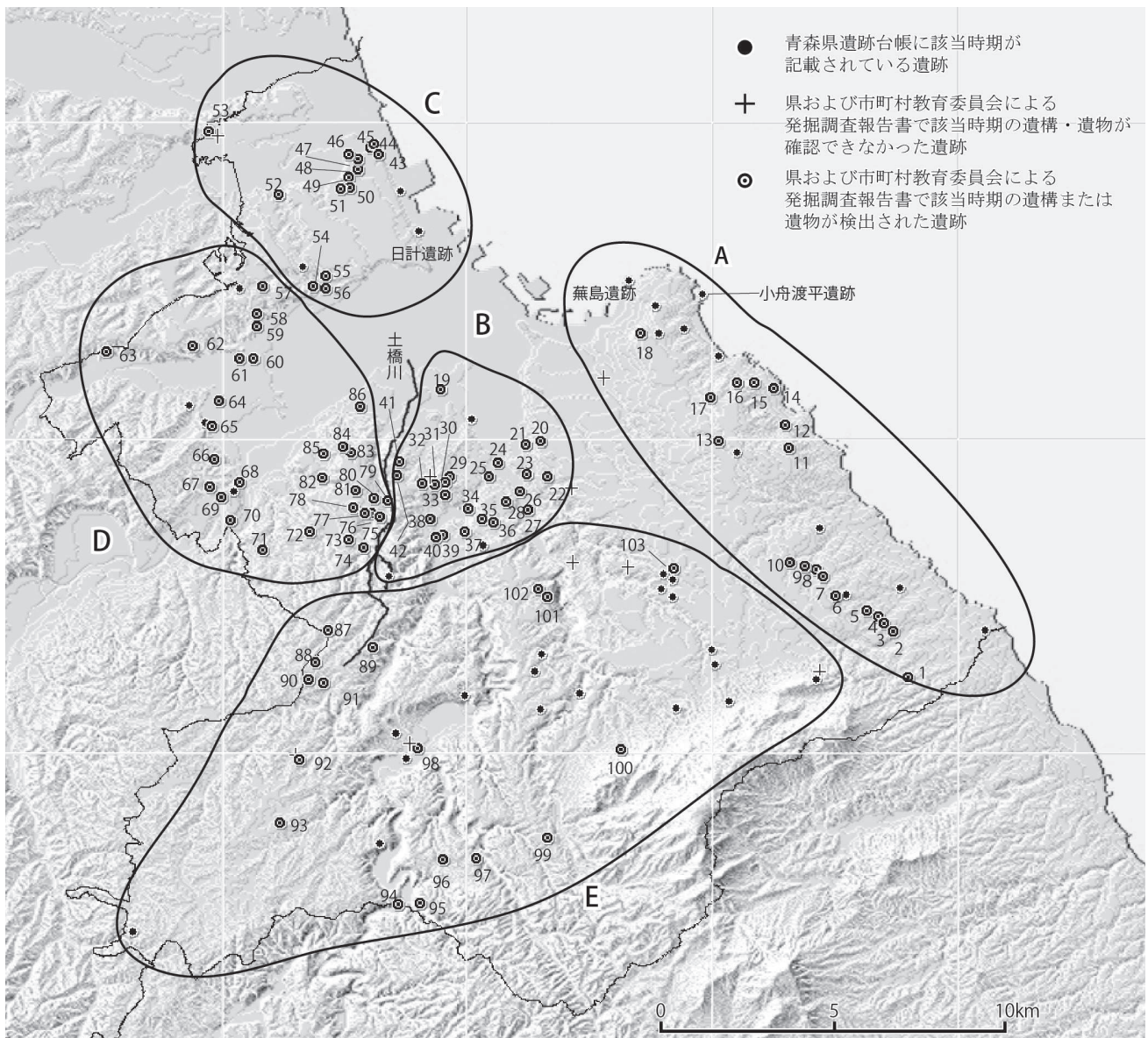


図1 対象地域・地域区分・対象遺跡位置図

表1 住居跡・落とし穴検出数

地域	住居跡	落とし穴
A	30	41
B	61	57
C	39	3
D	15	121
E	39	26
合計	184	248

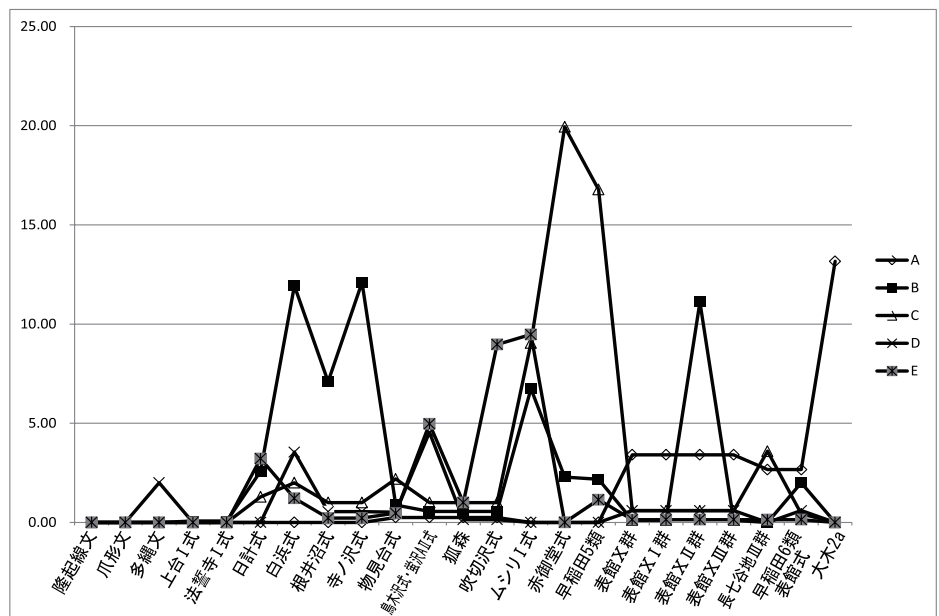


図2 住居跡検出数の時間的変化

表2 分析対象遺跡

番号	遺跡名	所 在 市町村	住居	陥穴	地域 区分	文献番号
1	白座遺跡	階上町			A	59
2	道仏鹿糠遺跡	階上町		12	A	53
3	藤沢 (2) 遺跡	階上町	15	5	A	53
4	藤沢 (1) 遺跡	階上町			A	50
5	天当平 (2) 遺跡	階上町			A	50
6	横沢山 (2) 遺跡	階上町		1	A	48
7	笹畑遺跡	階上町			A	57
8	横沢山 (1) 遺跡	階上町		2	A	48
9	荒屋敷久保 (1) 遺跡	八戸市		10	A	46
10	荒屋敷久保 (2) 遺跡	八戸市		3	A	48
11	沢堀込遺跡	八戸市	15	7	A	14
12	大槻窪遺跡	八戸市			A	83
13	大山遺跡	八戸市		1	A	90
14	中道遺跡	八戸市			A	85
15	舟渡ノ上遺跡	八戸市			A	83
16	小沢遺跡	八戸市			A	78
17	中崎遺跡	八戸市			A	86
18	冷水遺跡	八戸市			A	122
19	八戸城跡	八戸市	1		B	116
20	重地遺跡	八戸市			B	103
21	新井田古館遺跡	八戸市	6		B	76・67・80・102・ 106・118・121
22	市子林遺跡	八戸市	7	4	B	96・98・106・110・ 112
23	館平遺跡	八戸市	5		B	78・90・92・94
24	田向冷水遺跡	八戸市		13	B	30・111・120
25	田向遺跡	八戸市	21	11	B	30・96・99・ 108・117
26	赤御堂遺跡	八戸市	4		B	72・96
27	黒坂遺跡	八戸市		4	B	28
28	松ヶ崎遺跡	八戸市		1	B	22・36
29	中居林遺跡	八戸市		3	B	47・52
30	糠塚小沢遺跡	八戸市			B	35・47
31	長久保 (2) 遺跡	八戸市		5	B	34・47
32	糠塚大開 (2) 遺跡	八戸市			B	38
33	新田遺跡	八戸市	1		B	37・42
34	石手洗遺跡	八戸市			B	73
35	檜館遺跡	八戸市		10	B	31・39
36	弥次郎窪遺跡	八戸市			B	13・16
37	風張 (1) 遺跡	八戸市		5	B	75・78・79・80・ 114
38	潟野遺跡	八戸市	15		B	43・45
39	中居遺跡	八戸市			B	47・52・62・95
40	一王寺 (1) 遺跡	八戸市			B	87・90・112
41	休場遺跡	八戸市	1		B	110
42	沢里山遺跡	八戸市			B	89
43	長七谷地 6号遺跡	八戸市			C	1
44	長七谷地 4号遺跡	八戸市			C	1
45	長七谷地 5号遺跡	八戸市			C	1
46	長七谷地貝塚	八戸市	13		C	2・83
47	長七谷地 7号遺跡	八戸市	1		C	1・63
48	長七谷地 8号遺跡	八戸市	8	7	C	1・63
49	長七谷地 3号遺跡	八戸市			C	1
50	長七谷地 2号遺跡	八戸市	14	33	C	1・63
51	長七谷地 1号遺跡	八戸市	1	4	C	1
52	和野前山遺跡	八戸市			C	9
53	稲荷後 (2) 遺跡	八戸市			C	82
54	見立山 (1) 遺跡	八戸市			C	16

番号	遺跡名	所 在 市町村	住居	陥穴	地域 区分	文献番号
55	見立山 (2) 遺跡	八戸市	2		C	74
56	売場遺跡	八戸市			C	12
57	笹ノ沢 (3) 遺跡	八戸市			D	26
58	毛合清水 (3) 遺跡	八戸市			D	97
59	北熊ノ沢 (2) 遺跡	八戸市			D	122
60	林ノ前遺跡	八戸市		3	D	99・108・113・115・ 119・121・122
61	根岸山添遺跡	八戸市			D	33
62	泉沢 (3) 遺跡	八戸市			D	41
63	彦ヶ沢遺跡	八戸市			D	81
64	大仏遺跡	八戸市		3	D	97・104
65	大仏館遺跡	八戸市			D	80
66	岩ノ沢平遺跡	八戸市		35	D	21・25・79
67	人首沢遺跡	八戸市		3	D	97
68	一日市遺跡	八戸市			D	93
69	上野平 (3) 遺跡	八戸市		13	D	23
70	上野遺跡	八戸市		7	D	24・96
71	櫛引遺跡	八戸市	6	28	D	18・19・122
72	湯ノ沢遺跡	八戸市		2	D	119
73	鳥ノ木沢遺跡	八戸市		4	D	66・68
74	笹子 (2) 遺跡	八戸市		3	D	51
75	丹後谷地 (4) 遺跡	八戸市			D	71
76	丹後平 (3) 遺跡	八戸市		1	D	66
77	丹後平 (2) 遺跡	八戸市			D	80
78	田面木平 (1) 遺跡	八戸市		2	D	69
79	丹後谷地 (1) 遺跡	八戸市			D	67
79	丹後谷地 (1)(2) 遺跡	八戸市		1	D	66
80	丹後平 (1) 遺跡	八戸市			D	88
81	長者森遺跡	八戸市			D	7
82	酒美平遺跡	八戸市	3		D	100
83	牛ヶ沢 (3) 遺跡	八戸市			D	11
84	鶉窪遺跡	八戸市		15	D	8
85	田面木遺跡	八戸市	2		D	79・90
86	根城跡	八戸市	4	1	E	64・65・96・115
87	昼巻沢遺跡	八戸市・ 南部町			E	10
88	鴨平 (2) 遺跡	八戸市			E	6
89	大久保 (3) 遺跡	八戸市	2		E	105
90	鴨平 (1) 遺跡	八戸市			E	5
91	泥障作狐森遺跡	八戸市	1		E	55
92	馬場瀬 (1) 遺跡	八戸市			E	4
93	黄檗遺跡	八戸市			E	56
94	水古遺跡			2	E	17
95	畑内遺跡		3	10	E	15・20・27・29・ 32
96	田ノ上 (1) 遺跡	八戸市			E	3
97	前平遺跡	八戸市			E	3
99	田代遺跡	八戸市			E	44・54・122
98	島守館跡	八戸市			E	40
100	滝端遺跡	階上町	1		E	60
102	牛ヶ沢 (4) 遺跡	八戸市	23	12	E	84・91・101・107
101	小板橋 (2) 遺跡	階上町	9	2	E	58
103	志民 (2) 遺跡	八戸市			E	3
103	志民 (2) 遺跡	八戸市			E	

※番号は第1図中の番号と一致

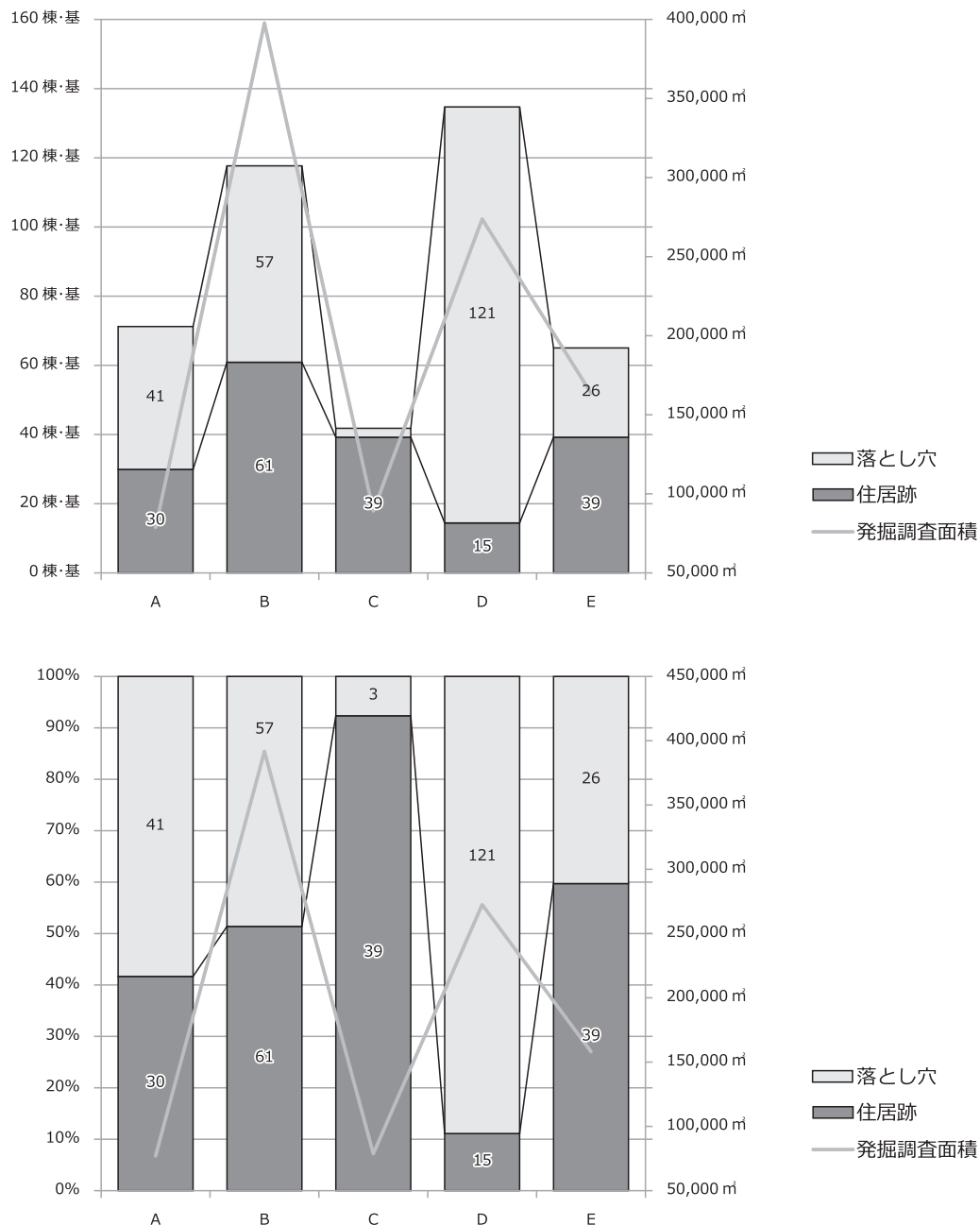


図3 住居跡・落とし穴検出数および発掘調査面積 (上:検出数・発掘調査面積の積み上げ 下:検出数の比、発掘調査面積積み上げ)

ことからD地域は全体に居住痕跡の希薄な地域であると考えられる。

次に、落とし穴について地域別に検出数をみると、D地域が121基と最も多く、以下、B地域が57基、A地域が41基、E地域が26基、C地域が3基の順になっている。D地域内で落とし穴が多数検出されている遺跡は、上野遺跡(7基)、岩ノ沢平遺跡(35基)、上野平(3)遺跡(13基)、櫛引遺跡(28基)、鶉窪遺跡(15基)となっており、現在の八戸市中心部より西側の馬淵川沿いに多い。B地域で落とし穴が多数検出されている遺跡は田向遺跡(11基)、田向冷水遺跡(13基)、櫛館遺跡(10基)といずれも松館川以西の新井田川流域である。

住居跡と落とし穴の分布を遺跡単位でみた場合、住居跡の近くに落とし穴がある場合もあるし、住居跡がない場所に落とし穴がつくられる場合もあり、単純ではない。近接して存在する場合は、住居跡と落とし穴に時間差がある可能性も考えられるが、落とし穴の時期を土器型式レベルで特定することが困難であるため断定できない。従って遺跡単位で見た場合、両者は排他的な関係にあったとはいえない。

住居跡と落とし穴の比率をみると、遺構数・発掘調査面積数とも多いB地域とD地域は対照的である。すなわちA地域は住居跡の比率が高く落とし穴の比率が低いのに対して、D地域は住居跡の比率が低く落とし穴の比率が高い。落とし穴の存在の背後には相応の居住活動が見込まなければならないわけで、B地域・D地域の住居跡／落とし穴

の比率の不均衡は、居住活動と落とし穴が本稿の分析単位の地域を越えて関連していた可能性を示唆する。

以上から次の点が指摘できる。

八戸地域で居住活動が活発になるのは縄文時代早期中葉の白浜式の頃である。

D 地域では遺構数の少ない草創期を除いて、対象時期を通じて居住痕跡が希薄であり一方、落とし穴が顕著に分布する。

B 地域では早期中葉～後葉にかけて居住活動が頻繁に行われた。

落とし穴は地域内でも特定の場所に集中する傾向がある。ただし、集落と排他的な関係にあったとはいえない。

B 地域と D 地域の住居跡／落とし穴の比率の不均衡は、落とし穴を営んだ主体が本稿の分析単位とした地域を越えて存在する可能性を示唆する。ただし対応する地域を、現時点で具体的に特定することは困難である。

3 円筒土器文化期の遺跡分布との比較

近年、東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境史研究室と八戸市埋蔵文化財センター・是川縄文館の共同研究により、八戸市における縄文時代早期～前期にかけての詳細な環境史が描き出されている（八戸市埋蔵文化財センター・是川縄文館・東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境史研究室 2014）。1 万年以降の縄文海進により八戸市付近には北から古奥入瀬湾、古八戸湾、古新居田湾の 3 つの内湾が形成されていた。8,000 年前の縄文時代早期後半ごろは、貝塚から出土した動物遺存体の分析からは、漁撈活動を中心とした生業が営まれ、狩猟活動は低調であったという（一木 2012）。5,900 年前、十和田火山の爆発により中振浮石が降下した。中振浮石を噴出した噴火は日本列島の過去 1 万年で最大級の噴火であり、東北地方北部の植生を激変させ、さらに八戸地域では軽石泥流や洪水を引き起こして、縄文海進時に形成された内湾群を埋め立ててしまった。これに伴い、円筒土器文化期の集落は海から離れたところに大きな集落生態系を形成した（是川縄文館・東京大学大学院環境史研究室：前掲）。事実、円筒土器文化期の遺跡は、中振浮石降下以前には住居跡が見られなかった松ヶ崎遺跡、蟹沢遺跡、重地遺跡など、従来よりも河川のやや奥まった場所に営まれるようになる。同様の傾向は小川原湖南岸から西岸、五戸川・奥入瀬川流域の早期～前期の遺跡分布についても見られる（図 4、斉藤 2009）。今後、土器型式レベルでの分析が必要であるが、中振浮石降下後の環境変化を反映している可能性がある。

ところで、前章で B 地域（新井田川・松館川流域）は居住活動の活発な地域であり、D 地域は居住活動が低調な地域であることを指摘した。また、筆者はかつて円筒土器文化期も同様なあり方を示すことを指摘した（中村 2013）。だとすれば、破局的な規模の噴火により中振浮石が噴出され、環境が激変した後も、B 地域が変わらず居住活動が活発な地域で、D 地域が低調な地域であったのかがあらためて問われることになる。生態ゾーンとして見れば両地域間で潜在的な資源量に大きな差があったとは考えがたい。地形的には D 地域に居住に適した緩斜面や平坦地が存在しないわけでもない。にわかには解答を与えることはできないが、まずは微地形による資源へのアクセス性や近距離・短距離の交易にかかわる移動コストなどが検討課題として考えられるのではないだろうか。

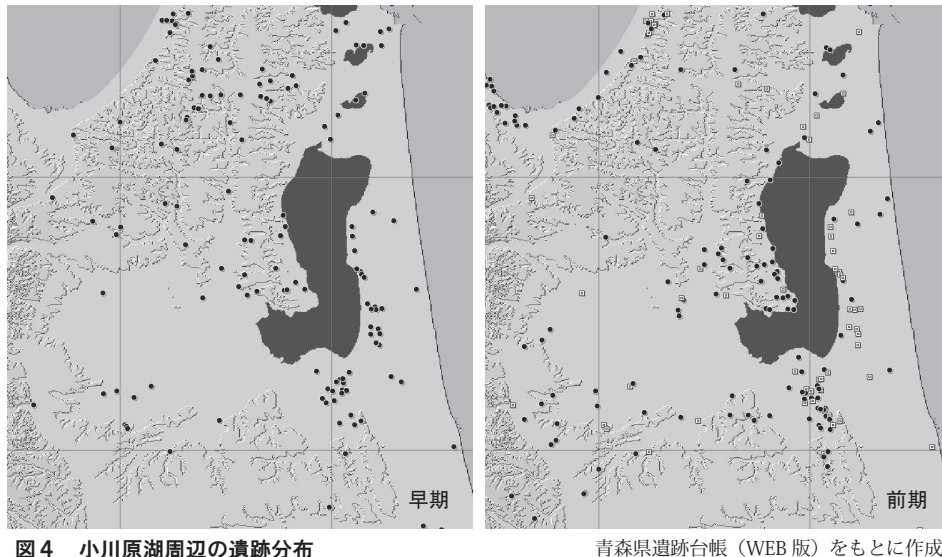
4 まとめ

八戸地域における縄文時代草創期から前期前半の遺跡分布について、遺跡分布状況・地理的な条件から A～E の 5 地域を設定し地域毎に遺跡の内容を分析した。その結果、設定した地域には居住活動の痕跡が濃密な地域と希薄な地域があること、落とし穴の分布に偏りがあること、落とし穴の分布は住居跡数から見た居住活動とは比例しないことを指摘し、落とし穴を営んだ主体は分析単位として設定した地域を越えて存在する可能性を考えた。

さらに、設定した地域のうち B・D 二つの地域の住居跡数から見た居住活動の濃淡は円筒土器文化期にも大枠では変わらないことを指摘した。破局的な噴火の後でも大枠での遺跡立地に変化が見られない理由にはにわかに明らかにできないが、生態ゾーンとして見た場合、両地域に潜在的な資源量に大きな差があるとは考えがたく、微地形による資源へのアクセス性や近距離・遠距離の交易にかかわる移動コストなどを検討課題として指摘した。

地域設定については感覚的な部分もあり、特に B 地域と E 地域、C 地域と D 地域の区分については恣意的と受け取られる可能性もある。今後、何らかの客観的な方法で区分を再検討する必要があるかもしれない。また、交易にかかわる移動コストなどを検討する際にはさらに分析対象地域を広げる必要がある。

八戸地域という枠組みの中で見る限り、縄文時代早期中葉以来、松館川・新井田川の合流点付近は居住地として繰り返し利用された。その一方で、土橋川以西の馬淵川・浅水川流域は居住活動の痕跡が希薄な地域であった。縄文時代中期末葉に、数千年続いてきた土地利用の枠組みが逆転することは大きな転換点だったと評価できる。ただし、集団の継続性という側面からみた場合、常に同一系統に属する集団がこの地を利用したという保証はない。この点については土器の系統など様々な側面から考えなければならないし、さらに分析対象地域を広げる必要があるだろう。



謝辞

福田友之氏には草稿をお読み頂き助言を頂きました。

また、文献検索について、斉藤慶吏氏、杉野森淳子氏にはお世話になりました。記して、感謝申し上げます。

註

- (1) 周辺の南部町・五戸町等を含めた遺跡の分布状況は稿をあらためて検討したいと考えているが、概略の見通しを述べれば、現在知られている遺跡分布からは本稿の分析に大きな影響を与えないと考える。
- (2) 対象としたのは八戸市教育委員会、階上町教育委員会、南郷村教育委員会、青森県教育委員会発行の発掘調査報告書である。八戸市教育委員会は2013年度までに発行されたもの、その他は2011年度までに発行されたものがある。
- (3) 青森県域では円形の落とし穴と溝状の落とし穴が知られている。時期が明確な円形の落とし穴は、これまでの調査事例から多くが中坵浮石降下以前であると判断される。明らかに中坵浮石降下後と断定できる事例はない。逆に溝状の落とし穴で中坵浮石降下以前につくられたことが明らかな事例はなく、ほとんどが中坵浮石降下以後のものと考えられる。中坵浮石は円筒下層a式成立直前に降下したのと考えられていることから円形の落とし穴は本稿で対象とする時期のものとして取り扱った。報告書に落とし穴として明記されていない場合でも、規模・形状や記載された堆積土の様相から当該期の落とし穴と判断されたものは分析対象に含めてある。
- (4) 当該時期の遺構または遺物が検出された遺跡について、発掘調査報告書により面積を集計した。報告書には、調査対象面積しか記載されない場合や、トレンチ先行調査により全面を調査していない場合、試掘調査により遺構確認面まで調査していない場合などがある。必要に応じて面積を計測し、あるいは集計から除外してあるが、調査範囲の内容を読み取れない場合もあった。そのため、発掘調査面積は大まかな目安としてとらえておく。
- (5) 住居跡の時期ごとの集計方法は以下のとおりである。出土遺物から時期を一型式に限定できない場合、遺跡から出土した土器や住居跡の形態などを参照し、帰属する可能性のある時期に均等に割り振った。例えば、1軒の住居跡が3時期に帰属する可能性がある場合は各期0.33である。割り切れない場合は小数点以下第3位以下を切り捨てた。そのため合計は住居跡の単純な集計とは意味が異なり、任意の時期の値が1以上であっても確実に住居跡が存在したとはいえない。期待値を示すいわば一種の指数である。
- (6) 早期中葉の編年については複数の意見があり見解の一致を見ていないが、本稿では白浜式、根井沼式、寺ノ沢式物見台式、鳥木沢式・蛭沢A2式、(狐森)、吹切沢式に区分した。狐森遺跡出土土器は寺ノ沢式と吹切沢式の間期的な様相を示しており位置づけが難しい土器であるが仮にここにおいた。また、円筒下層式直前の型式と考えられている大木2a式、白座式、深郷田式類似土器については相互の時間的關係は定まっていな、中坵浮石との上下関係もわかっていない(星・茅野 2006)ので、一括して一時期とした。
- (7) 根城跡は、中世南部氏の拠点として広く知られている。周辺の発掘調査によれば、中・近世の掘立柱建物主体の地区も相当にある。掘立柱建物跡が主体であれば縄文時代の住居跡の一部は残存する可能性が高い。

参考文献

(論文)

- 一木絵里 2013 「日本における縄文海進の海域環境と人間活動」東京大学学位論文
- 中村哲也 2013 「八戸市南部における縄文遺跡の分布とその変遷」『青森県立郷土館研究紀要』第37号 pp. 1-12
- 中村哲也 2014 「八戸市南部における円筒式以前の縄文遺跡地名表」『青森県立郷土館研究紀要』第38号 pp. 107-112
- 斉藤慶史 2009 「青森県域縄文海進期前後における居住様式—小川原湖沼群周辺地域を対象として」『青森県考古学』第17号 pp.27-40
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館・東京大学大学院新領域創成科学研究科
環境史研究室編 2014 『海と火山と縄文人』平成26年度秋期企画展図録
- 星雅之・茅野嘉雄 2006 「十和田中楸テフラから見た円筒下層a式土器成立期の土器様相」『植生史研究 特別第2号 三内丸山遺跡の生態系史』pp.151-180

(発掘調査報告書等)

- ※ 対象時期の遺物、遺構、またはその両方が確認できる報告書のみ示した。いずれも確認できない場合でも、同一遺跡で対象時期に該当する報告があれば発掘調査面積の算出に用いたが、参考文献からは割愛した。行頭の番号は表2の文献番号と一致する。また、青森県教育委員会刊行の報告書は末尾に編集責任者を括弧内に示した。

青森県教育委員会 『青森県遺跡地図』(WEB版) 平成26年12月閲覧

- 1 青森県教育委員会 1980 『桔梗野工業団地造成に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書51(県教委編)
- 2 青森県教育委員会 1980 『長七谷地貝塚遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書57(県教委編)
- 3 青森県教育委員会 1981 『国営八戸平原開拓建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』 青森県埋蔵文化財調査報告書64(県教委編)
- 4 青森県教育委員会 1982 『馬場瀬(1)(2)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書70(県埋文編)
- 5 青森県教育委員会 1982 『鴨平(1)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書72(県埋文編)
- 6 青森県教育委員会 1983 『鴨平(2)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書73(県埋文編)
- 7 青森県教育委員会 1983 『長者森遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書74(県埋文編)
- 8 青森県教育委員会 1983 『鶉窪遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書76(県埋文編)
- 9 青森県教育委員会 1984 『和野前山遺跡調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書82(県埋文編)
- 10 青森県教育委員会 1984 『昼巻沢遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書83(県埋文編)
- 11 青森県教育委員会 1984 『牛ヶ沢(3)遺跡発掘報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書86(県埋文編)
- 12 青森県教育委員会 1983 『売場遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書93(県埋文編)
- 13 青森県教育委員会 1989 『弥次郎窪遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書128(県埋文編)
- 14 青森県教育委員会 1992 『沢掘込遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書144(県埋文編)
- 15 青森県教育委員会 1994 『畑内遺跡Ⅰ』 青森県埋蔵文化財調査報告書161(県埋文編)
- 16 青森県教育委員会 1998 『見立山遺跡 弥次郎窪遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財発掘調査報告書238(県埋文編)
- 17 青森県教育委員会 1998 『水吉遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書245(県埋文編)
- 18 青森県教育委員会 1999 『櫛引遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書263(県埋文編)
- 19 青森県教育委員会 2000 『櫛引遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書272(県埋文編)
- 20 青森県教育委員会 2000 『畑内遺跡Ⅵ』 青森県埋蔵文化財調査報告書276(県埋文編)
- 21 青森県教育委員会 2000 『岩ノ沢平遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書287(県埋文編)
- 22 青森県教育委員会 2001 『松ヶ崎遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書291(県教委編)
- 23 青森県教育委員会 2001 『上野平(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書296(県埋文編)
- 24 青森県教育委員会 2001 『上野遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書297(県埋文編)
- 25 青森県教育委員会 2001 『岩ノ沢平遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書301(県埋文編)
- 26 青森県教育委員会 2001 『笹ノ沢(2)・(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書305(県埋文編)
- 27 青森県教育委員会 2001 『畑内遺跡Ⅶ』 青森県埋蔵文化財調査報告書308(県埋文編)
- 28 青森県教育委員会 2001 『黒坂遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書317(県埋文編)

- 29 青森県教育委員会 2002 『畑内遺跡Ⅷ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 326(県埋文編)
- 30 青森県教育委員会 2002 『田向冷水遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 336(県教委編)
- 31 青森県教育委員会 2003 『檜館遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 342(県埋文編)
- 32 青森県教育委員会 2003 『畑内遺跡Ⅸ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 345(県埋文編)
- 33 青森県教育委員会 2004 『根岸山添遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 364(県埋文編)
- 34 青森県教育委員会 2004 『長久保 (2) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 367(県埋文編)
- 35 青森県教育委員会 2004 『糠塚小沢遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 376(県教委編)
- 36 青森県教育委員会 2004 『松ヶ崎遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 377(県埋文編)
- 37 青森県教育委員会 2005 『大開遺跡・新田遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 384(県埋文編)
- 38 青森県教育委員会 2005 『糠塚大開 (2) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 385(県埋文編)
- 39 青森県教育委員会 2005 『檜館Ⅱ遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 388(県埋文編)
- 40 青森県教育委員会 2005 『島守館跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 399(県教委編)
- 41 青森県教育委員会 2005 『泉沢 (3) 遺跡・根岸山添遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 400(県教委編)
- 42 青森県教育委員会 2006 『新田遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 410(県埋文編)
- 43 青森県教育委員会 2006 『潟野遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 412(県埋文編)
- 44 青森県教育委員会 2007 『田代遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 428(県埋文編)
- 45 青森県教育委員会 2007 『潟野遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 431(県埋文編)
- 46 青森県教育委員会 2008 『荒屋敷久保 (1) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 453(県埋文編)
- 47 青森県教育委員会 2008 『長久保 (2) 遺跡・中居林遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 454(県埋文編)
- 48 青森県教育委員会 2009 『荒屋敷久保 (2) 遺跡 横沢山 (1) 遺跡 横沢山 (2) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 465(県埋文編)
- 49 青森県教育委員会 2009 『長久保 (2) 遺跡Ⅱ 糠塚小沢遺跡Ⅱ 中居林遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 470(県埋文編)
- 50 青森県教育委員会 2010 『天当平 (1) 遺跡 天当平 (2) 遺跡 藤沢 (1) 遺跡 笹畑 (2) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 479(県埋文編)
- 51 青森県教育委員会 2010 『笹子 (2) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 480(県埋文編)
- 52 青森県教育委員会 2010 『中居林遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 485(県埋文編)
- 53 青森県教育委員会 2011 『道仏鹿糠遺跡・藤沢 (2) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 499(県埋文編)
- 54 青森県教育委員会 2011 『田代遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 506(県埋文編)
- 55 青森県南郷村教育委員会 1998 『狐森遺跡発掘調査報告書』 南郷村埋蔵文化財調査報告書 1
- 56 青森県南郷村教育委員会 2001 『黄檗遺跡』 南郷村埋蔵文化財調査報告書 3
- 57 青森県階上町教育委員会 2007 『寺下遺跡・笹畑遺跡発掘調査報告書』
- 58 青森県階上町教育委員会 2002 『青森県階上町小板橋 (2) 遺跡』
- 59 階上町教育委員会 2000 『白座遺跡・野場 (3) 遺跡発掘調査報告書』
- 60 階上町教育委員会 2000 『滝端遺跡発掘調査報告書』
- 61 八戸市教育委員会 1980 『長七谷地貝塚発掘調査報告書 (本文編)/ 長七谷地貝塚発掘調査報告書 (図版編)』
八戸市埋蔵文化財調査報告書 3・4
- 62 八戸遺跡調査会 2004 『是川中居遺跡 中居地区 G・L・M』 八戸遺跡調査会文化財調査報告書 5
- 63 八戸市教育委員会 1982 『長七谷地遺跡発掘調査報告書』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 8
- 64 八戸市教育委員会 1983 『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅳ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 9
- 65 八戸市教育委員会 1983 『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅴ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 11
- 66 八戸市教育委員会 1984 『八戸新都心区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 13
- 67 八戸市教育委員会 1986 『丹後谷地遺跡発掘調査報告書』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 15
- 68 八戸市教育委員会 1986 『八戸新都心区域内埋蔵文化財発掘調査報告書』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 17
- 69 八戸市教育委員会 1988 『田面木平遺跡 (1)』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 20
- 70 八戸市教育委員会 1988 『田面遺跡発掘調査報告書』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 22
- 71 八戸市教育委員会 1988 『八戸新都心区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 27
- 72 八戸市教育委員会 1989 『赤御堂遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 33
- 73 八戸市教育委員会 1990 『八戸市内遺跡発掘調査報告書 1』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 36
- 74 八戸市教育委員会 1990 『見立山 (2) 遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 38

75	八戸市教育委員会	1991	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 2 風張 (1) 遺跡 I』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 40
76	八戸市教育委員会	1990	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 3』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 41
77	八戸市教育委員会	1991	『風張 (1) 遺跡 II』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 42
78	八戸市教育委員会	1990	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 4』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 45
79	八戸市教育委員会	1991	『岩ノ沢平遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 46
80	八戸市教育委員会	1992	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 5』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 48
81	八戸市教育委員会	1993	『彦ヶ沢遺跡発掘調査報告書』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 52
82	八戸市教育委員会	1994	『稲荷後 (1)・(2) 遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 58
83	八戸市教育委員会	1994	『舟渡ノ上遺跡・大槻窪遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 59
84	八戸市教育委員会	1994	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 6』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 60
85	八戸市教育委員会	1995	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 7』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 61
86	八戸市教育委員会	1995	『中崎遺跡・中道遺跡・神子沢久保 (1) 遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 64
87	八戸市教育委員会	1996	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 8』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 65
88	八戸市教育委員会	1996	『丹後平 (1) 遺跡、丹後平古墳』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 66
89	八戸市教育委員会	1996	『沢里山遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 67
90	八戸市教育委員会	1996	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 9』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 69
91	八戸市教育委員会	1998	『牛ヶ沢 (4) 遺跡 I』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 71
92	八戸市教育委員会	1998	『館平遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 75
93	八戸市教育委員会	1998	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 11』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 77
94	八戸市教育委員会	1999	『館平遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 81
95	八戸市教育委員会	1999	『是川中居遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 82
96	八戸市教育委員会	2000	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 12』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 83
97	八戸市教育委員会	2000	『人首沢遺跡・毛合清水 (3) 遺跡・大仏遺跡 / 大仏遺跡 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 II』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 84
98	八戸市教育委員会	2000	『市子林遺跡発掘調査報告書』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 85
99	八戸市教育委員会	2001	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 13』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 87
100	八戸市教育委員会	2001	『酒美平遺跡 II』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 88
101	八戸市教育委員会	2001	『牛ヶ沢 (4) 遺跡 II』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 89
102	八戸市教育委員会	2002	『新井田古館遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 94
103	八戸市教育委員会	2002	『重地遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 95
104	八戸市教育委員会	2002	『大仏遺跡 II』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 98
105	八戸市教育委員会	2001	『新階上線鉄塔建設関係発掘調査報告書』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 101
106	八戸市教育委員会	2004	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 18』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 102
107	八戸市教育委員会	2004	『牛ヶ沢 (4) 遺跡 III』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 104
108	八戸市教育委員会	2004	『田向遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 105
109	八戸市教育委員会	2005	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 21』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 108
110	八戸市教育委員会	2006	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 22』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 109
111	八戸市教育委員会	2006	『田向冷水遺跡 II』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 113
112	八戸市教育委員会	2007	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 24』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 114
113	八戸市教育委員会	2008	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 25』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 117
114	八戸市教育委員会	2008	『風張 (1) 遺跡 VI』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 119
115	八戸市教育委員会	2009	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 26』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 120
116	八戸市教育委員会	2009	『八戸城跡 IV』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 121
117	八戸市教育委員会	2009	『田向遺跡 II』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 122
118	八戸市教育委員会	2010	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 27』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 124
119	八戸市教育委員会	2010	『湯ノ沢遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 127
120	八戸市教育委員会	2011	『田向冷水遺跡 IV』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 129
121	八戸市教育委員会	2011	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 28』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 134
122	八戸市教育委員会	2013	『八戸市内遺跡発掘調査報告書 30』 八戸市埋蔵文化財調査報告書 140